

第二回検討会 作業シート | 文化芸術編

今後の課題 | 各部会から出された課題・意見を要約して掲載しています。

<p>【テーマ（１） 板橋らしい文化芸術】</p> <ul style="list-style-type: none">文化芸術は個人の楽しみとして認識されることがあるが、文化芸術活動は生きがいであり、生活の一部である。文化芸術の活性化は、まちの活性化に繋がる重要なものと捉えていくことが必要。多様な文化芸術活動がある中で、すべての人が自由に活動できる環境を提供する必要がある。そのために各活動を把握し、共有し、支援が必要。板橋区には文化芸術における良いコンテンツがあり、それぞれ別々に点在しているため、分野横断的に発信を考えていくことが必要。教育、福祉、観光などの関係分野と連携することが必要。文化芸術活動や鑑賞ができない人の実態を把握し、誰もが参加しやすい環境を整えることで全体の参加者を増やすことが必要。文化芸術振興では企画、キュレーションが重要となる。区職員だけでなく、専門分野の識者に意見をもらうことも必要。区立美術館における地域芸術家支援が必要。地域性を大事にしていくべき。西板橋では、田遊びなどの文化が残る。西の板橋と、東の板橋に違いがあってよいのではないか。伝統工芸は後継者不足による継承問題がある。区では伝統工芸を教育の一環として学ぶが、継承に向けた発展やフィードバックがない。伝統工芸を価値あるものとして展開し、板橋区のブランド化に繋げ、若者が伝統工芸への関心を持つきっかけづくりをすることが必要。「絵本のまち」など、子どもが活躍できるテーマを活かし、子どもが主体的に区と関わり、実感が得られる機会とすることが必要。また「絵本のまち」は、絵本を軸にしたどのような展開を目指すのか示していくことが必要。	<p>【テーマ（２） 文化芸術の活動の場】</p> <ul style="list-style-type: none">文化会館は老朽化が進み、音漏れによる利用制限もあるうえ、利用率の減少という課題も抱えている。施設改善を行い、安心・安全に利用できる環境にすることで、活動の場や鑑賞機会の拡大につながり、利用者の増大も見込める。文化会館は多くの方が利用する場であり、また多くの芸術家が利用している場でもある。今後は、利用者層や利用方法などのデータ収集、区内で活動する芸術家の把握など、文化芸術情報の管理が必要である。同時に、文化会館を情報発信の拠点として活用することや、近隣商店街と連携するなどの事業 PR を進めることも求められる。文化施設のバリアフリー化を推進していく必要がある。点字案内やエレベーターのスペース拡大を行い、音声案内ガイドを活用するなどハード・ソフト両面から施設改善を行うことで、障がいの有無や年齢、性別に関わらず、誰もが文化芸術活動を行える環境を整備していくべきである。新たな文化芸術活動の場の創出が必要である。既存の文化施設に限らず、公的空間や屋外施設などを活用することで、区内芸術家の活動の場を増やしていくのはどうか。さらに、地域の特性を生かし、それぞれに小規模なホールなどを整備することで、コロナウイルス感染症により大規模イベントが開催できないような場合でも、柔軟な文化芸術活動の実施が可能になり、同時に地域に根付く文化の創出にもつながる。区民主体の文化芸術活動機会を創出するためには、文化施設など活動できる場所の認知度向上が求められる。民間の力を活用するなど、周知の方法を検討していくべきである。文化施設の空室について、状況に応じて低価格で提供することで、活動の場の提供、空室解消、地域の身近なイベント開催など各方面への利益となる取り組みができるのではないか。
---	--

【具体的な意見】例「伝統文化の保存は、保存するだけでなく活用の観点も踏まえて検討してはどうか」

2025 年のあるべき姿 | 概ね 5 年後の板橋区の文化芸術を見据え、「こうしたまちであってほしい」などのあるべき姿を考えていきます。

<ul style="list-style-type: none">「絵本のまち」や「産業文化都市」など板橋区の歴史的・文化的ブランドが区民に浸透し、その価値が交流都市をはじめ世界中に発信されています。文化団体連合会、板橋ゆかりのアーティストなどの文化芸術や、赤塚地域の郷土芸能、伝統文化などの歴史文化財を、区民が知り、自ら楽しむことを通して、板橋らしい文化芸術を応援しています。	<ul style="list-style-type: none">文化会館を中心とした安心・安全に利用できるハード面の整備と、文化団体への支援、活動や発表できる機会の創出などソフト面の充実により、年齢や性別、障がいの有無を問わず、だれでも文化活動に参加できる環境が整っています。
---	--

【具体的な意見】例「板橋区の文化芸術創造の発想も盛り込んでどうか」

施策の方向性 | 上記の「あるべき姿」や、「未来像」を実現するために、どのような施策のあり方が望ましいか考えていきます。

<p>板橋らしい文化芸術の魅力発信</p> <p>「絵本のまち」や光学・印刷などの産業分野など、板橋らしい文化がもつ魅力を発信していきます。また、区内の地域を、それぞれの特色を生かした文化芸術活動の場として発信していきます。さらに、海外姉妹・友好都市との交流をとおして、文化・観光事業と国際交流事業の連携を推進していきます。</p> <p>地域がもつ文化芸術資産の活用</p> <p>赤塚エリアの文化施設の魅力向上や連携推進、加賀エリアの文化・産業・歴史ゾーンの整備など、それぞれの地域がもつ資産を有効活用していきます。また、郷土芸能、伝統文化の継承や認知度向上、地域文化の発掘・創造にも取り組みます。</p>	<p>区民による文化芸術活動の支援</p> <p>文化会館のサービス・設備を充実させることや、活動できる場所や機会充実させることなどをとおして、区民の文化芸術活動を支援していきます。同時に、子どもの豊かな想像力を育む教育により、未来の担い手を育成していきます。</p>
---	---

【具体的な意見】例「SDG s の視点を盛り込んでみるのはどうか」